

授業概要

本授業では、行動実験もしくは質問紙調査（または質問紙実験）を実施した場合を想定した統計分析の演習を行います。提示される課題に応じて、各自で SPSS などに代表される統計ソフトを操作することが必要な授業であり、デモデータに対応した統計方法を選択し、実際に分析を行い、その結果を考察します。演習を通じて、心理学統計の実際と課題について学びながら、心理学的研究が遂行できるスキルの修得をめざします。下記「履修上の注意」に記したとおり、関連諸科目の単位を取得済み（履修済みは応相談）の学生を対象とした心理学統計の応用科目です。

授業計画

| | |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス：心理統計とは |
| 第 2 回 | 心理統計の基礎 |
| 第 3 回 | 平均値・分散を使った分析（1）：t 検定 |
| 第 4 回 | 平均値・分散を使った分析（2）：分散分析 |
| 第 5 回 | クロス表の分析（1）：相関 |
| 第 6 回 | クロス表の分析（2）：名義尺度を用いた分析 |
| 第 7 回 | 多変量データの特徴と分析方法 |
| 第 8 回 | 重回帰分析 |
| 第 9 回 | 判別分析 |
| 第 10 回 | 主成分分析 |
| 第 11 回 | 因子分析 |
| 第 12 回 | 数量化理論 |
| 第 13 回 | 多次元尺度構成法 |
| 第 14 回 | クラスター分析 |
| 第 15 回 | 共分散構造分析 |
| 第 16 回 | まとめ：レポートの提出 |

到達目標

心理学の実証的論文を執筆するために必要な、データ分析能力、統計結果に関する表現能力を身につける。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。授業での課題や討論に積極的に取り組むこと。
- ・「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」の単位取得者を対象とする。履修済みでない場合、理解が困難な授業内容であることに留意し、今期に履修すること。なお、「心理学研究法」「調査研究法」も履修済みであることが望ましい。
- ・演習という性質上、受講学生数の制限を行う場合がある。履修者の決定は第1回授業で行う。何らかの事情で第1回の授業を欠席する場合は、事前に担当教員へ必ず連絡すること。
- ・各自でパソコンを使用し演習をしていただく。

予習・復習

- ・予習として「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」を理解しておくこと。
- ・復習として毎回の資料と課題を振り返ること。

評価方法

授業における課題（60%）とレポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

資料を配布するためテキストは指定しない。授業内で、参考書を適宜紹介する。